

シンクタンク神奈川のいま

～2年目のシンクタンク神奈川の活動紹介と今後の方向性～

シンクタンク神奈川の活動は2年目に入りました。昨年度計画した事業も動き出し、活気あふれる職場になっています。ここではシンクタンク神奈川の2年目の活動を紹介します。さらに今後の方向性も考えます。

◆シンクタンク神奈川の活動

シンクタンク神奈川は、本県の重要な知的・人的資源である大学と一層の連携を図りながら、多様化、複雑化する県政課題に的確に対応する政策の形成を支える調査・研究を行うとともに、大学や地域の力を結集して、ともに地域課題の解決を図る新たな協働の仕組みを構築、運営することを通じて、政策主導の県政運営に寄与することを目標に活動しています。

◆調査研究事業

(1) 政策研究

多様化、複雑化する県政課題に的確に対応するため、本県の実情を踏まえた政策形成を支える調査研究を実施しています。内容については、県庁内から広くテーマを募集するとともに、シンクタンク神奈川自らもテーマ会議を開き、有識者の助言を受けて決定したテーマを実施しています。

【平成23年度研究内容】

- ・墓地に関する研究
- ・神奈川県若年層フリーターの実態に関する研究
- ・地域コミュニティの弱体化に関する研究
- ・県民の県政参加につながる広聴制度の調査・研究
- ・県の政策研究機能開発についての外部機関との連携に関する研究

(2) 県民からの政策提案制度

今年度は36件の応募があり、4件が採択されました。

(3) 情報の発信

① 政策研究・大学連携センターシンポジウムの開催

平成22年度にシンクタンク神奈川で行った調査研究によって得られた情報や知見を広く発信し活用してもらうとともに、県内外の自治体、大学、研究機関との情報交換、交流を促進し、調査研究の活性化を図ります。また、神奈川の魅力を活かした地域活性化を考えるシンポジウムを開催します。

日時：平成23年11月9日（水）

場所：横浜市社会福祉センターホール

内容：

第1部：政策研究・大学連携事例発表会

進行・講評：小池治 横浜国立大学大学院国

際社会科学部教授

- i 子どもの安心のための政策研究
- ii 地域における科学技術政策のあり方に関する研究

(シンクタンク神奈川)

- iii 大学連携のあり方研究

(せたがや自治政策研究所)

- iv 神奈川DMAT活動について

(聖マリアンナ医科大学)

第2部：シンポジウム「マグネット神奈川の実現に向けた地域活性化の取組み」

- i あいさつ「いのち輝くマグネット神奈川に向けて」（黒岩祐治神奈川県知事）
- ii 基調講演「地域資源を地域活性化にどのように活かすか」（㈱日本政策投資銀行参事役 藻谷浩介氏）
- iii パネルディスカッション「マグネット神奈川の実現に向けた地域活性化の取組み」
パネリスト：高橋忠生氏（社団法人神奈川県経営者協会会長）
浜野安宏氏（㈱浜野総合研究所代表取締役社長）
藻谷浩介氏
コーディネーター：黒岩祐治神奈川県知事

② 自治体学会における研究発表

平成23年10月9日（日）法政大学市ヶ谷キャンパスにおいて開催された第25回自治体学会大会の研究発表セッションで、平成22年度にシンクタンク神奈川で研究したテーマの中から、「子どもの安心のための政策研究」と「地域における科学技術政策のあり方に関する研究」について発表を行いました。

◆大学連携事業

(1) 大学発・政策提案制度

県内に所在する大学から県政に関わる政策を募集し、公開コンペによる審査で選ばれた提案について、大学と県が協働で事業を実施します。平成23年度は、26件の応募の中から次の5件が採択されました。

提案の名称 実施代表者	事業の概要
性暴力対応医療者の養成プログラムの開発及び実施に関する研究 県立保健福祉大学	性暴力被害者が心身のケア及び生活再建のために必要な支援を受けることができる包括的な性暴力支援体制を神奈川県に構築するため、性暴力被害に対応できる知識と技能をもった保健医療福祉専門職の養成プログラムを開発し、モデル事業を実施する。
神奈川県民生委員児童委員協議会・神奈川県社会福祉協議会との協働による「精神障害者が社会参加するための支援の準備セミナー」モデルの開発 国際医療福祉大学	「精神障害者が社会参加するための支援の準備セミナー」を通年で展開し、地域住民が精神障害者の社会参加への理解を高め、精神障害者自身が社会参加に積極になれる市民風土作りと共に、精神障害者の社会参加支援グループの育成を行う。
芸術系大学連携による参加型ミュージカル創作と公立文化施設の活用を通じた賑わいの創出 昭和音楽大学 女子美術大学	県内芸術系大学との連携協働により、演劇、ダンス、音楽、美術の各分野が融合した総合舞台芸術であるミュージカル創作を実施する。
大規模災害時に携帯電話へエリアワンセグ配信を行うための臨時災害放送の設計と、県内市町村、放送局・情報通信連携によるマルチモーダルな災害情報基盤の整備・制度化の推進 専修大学	大地震など大規模災害初動時の、神奈川県域における緊急情報システムとしてエリアワンセグ伝送を使用し、主に携帯電話への情報配信を行うため、必要な研究調査を行ったうえで、技術検証、需要・効果検証、制度化、条例化、手続き標準化を立案推進する。

<p>独創的で理科への興味を高める高等学校生物実験プログラムの開発</p>	<p>高校生が興味を持てる独創的な生物実験プログラムを開発・普及するため、コミュニケーションや論理的思考の技術に関する講義・演習を受講した提案大学の学生が、高校との調整をもとに実験プログラムの開発及びキット化を進める。</p>
<p>横浜国立大学</p>	

(2) 神奈川県版インターンシップ

県内で学ぶ大学生を対象に、県内にある企業・団体での業務体験を通じて「社会的及び職業的自立を図るために必要な力（＝就業力）」を高めることを目的とした、大学・地域・行政の連携によるキャリア教育プログラムです。今年度はモデル的に、神奈川大学、関東学院大学、東海大学の3大学で実施しました。

(3) 「かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア」

平成23年7月16日に、新都市ホール(そごう横浜店9階)において開催しました。当日は中高生を中心に2,200人あまりの来場者を集め、大盛況のうちに終了しました。

詳しくは、71ページの「神奈川の政策紹介」に記載しています。

(4) 神奈川県学長・知事懇談会

地域と大学のつながりをより密接にしていくため、大学、短期大学等のトップから幅広く自由な意見をいただき、県政の抱える課題について、理解と協力を得ることを目的として昭和55年度より毎年開催しています。今年度は「大学と地域の連携について～エコキャンパスの取り組み」をテーマに11月17日に開催を予定しています。

◆シンクタンク神奈川のこれから

シンクタンク神奈川の活動は2年目となりました。政策研究活動や、今年度から本格的に実施となった事業により、忙しくも活気あふれる職場となっています。

昨年度の、成果と課題をしっかりと分析・検証して、今年度は、足元を固めつつ、さらなる飛躍に向けて職員一同、研鑽に励んでいきたいと思えます。今後とも、皆様のご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

<編集後記>

○「自治体に政策研究を行うシンクタンクは本当に必要か」、自治体の政策研究機能の必要性・あり方は様々な議論がある。しかし、自治体をめぐる課題の多様化・複雑化が言われる今こそ、自治体の政策形成能力の基礎体力となる政策研究機能はさらに重要となるだろう。(岸本)

○エアコンは使わない、こまめに電気を消す、コンセントはもちろん抜く…持ち前の節約心(ケチ根性?)で今までは周囲から少しひかれていた私の節電法も今年初めて日の目をみました。節電については継続的な取り組みが必要なことから、引き続き堂々と、より効果的な方法を検討し、実施していきたいと思えます。(原田)

○東日本大震災があった今年、シンクタンク神奈川は2年目を迎えた。震災では多くの苦しみ・悲しみがあつたが、地域・コミュニティの力が再認識もされた。そして、自治体行政の役割が問われ続けている。被災した自治体と連携するためにも、自らの防災力を高めるためにも、各自治体の政策力の蓄積の必要を感じている。(中畠)